



横河電機株式会社

2024年3月期 第3四半期決算説明会

2024年2月6日

イベント概要

[企業名]	横河電機株式会社
[企業 ID]	6841
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 3 四半期
[日程]	2024 年 2 月 6 日
[ページ数]	21
[時間]	17:30 – 18:15 (合計：45 分、登壇：12 分、質疑応答：33 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 執行役員 経理財務本部長 中嶋 倫子 (以下、中嶋)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ポイント

■第3四半期実績：増収増益

- ・サマリー： 受注は、減少
売上は、生産部品およびプロジェクト調達品の調達環境の改善や値上げ施策の効果、COVID-19後に受注した大型案件の売上高への計上、為替の変動影響などにより増収
営業利益は、売上の増加に伴う粗利増などにより増益
四半期純利益は、増益
- ・セグメント別： 制御 増収増益 (除・為替影響：受注▲4.9%、売上+19.7%)
測定器 増収増益
新事業他 前年並み

■通期業績予想：上方修正

■配当予想：増配修正

中嶋：お手元の資料4ページに、決算のポイントを記載しております。こちらの内容を次のページ以降でご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注・売上 : 受注は**減少**（除・為替影響▲231億円、▲5.7%）
売上は生産部品およびプロジェクト調達品の調達環境の改善や値上げ施策の効果、COVID-19後に受注した大型案件の売上高への計上、為替の変動影響などにより**増収**（除・為替影響+651億、+20.5%）
- ◆営業利益 : 売上の増加に伴う粗利増などにより**増益**（除・為替影響+305億円）
- ◆四半期純利益 : **増益**（除・為替影響+328億円）

(億円)

	FY22 1Q-3Q	FY23 1Q-3Q	差 異	増減率	為替影響
受 注 高	4,035	3,907	▲128	▲3.2%	+103
売 上 高	3,175	3,931	+756	+23.8%	+106
営 業 利 益	247	584	+336	+135.9%	+32
ROS(%)	7.8	14.9	+7.1pt	-	-
経 常 利 益	268	610	+342	+127.7%	+32
親会社株主に帰属 する四半期純利益	169	521	+353	+209.2%	+24
為替レート 1米ドル=	137.01円	143.78円	+6.77円	-	-

5 ページ、決算サマリーです。

受注は 3,907 億円、為替の影響を除き、対前年マイナス 231 億円、5.7%の減少となりました。これは主に、昨年第 3 四半期にエネルギー関連の大口案件を受注した反動です。

売上は 3,931 億円、為替の影響を除き、対前年でプラス 651 億円、20.5%の大幅増収となりました。部品等の調達環境の改善に伴う受注残消化が売上を押し上げる状況が継続しており、2Q までとほぼ同様の増収率となっています。

営業利益は、対前年プラス 336 億円の 584 億円、当期純利益は、対前年プラス 353 億円の 521 億円となりました。

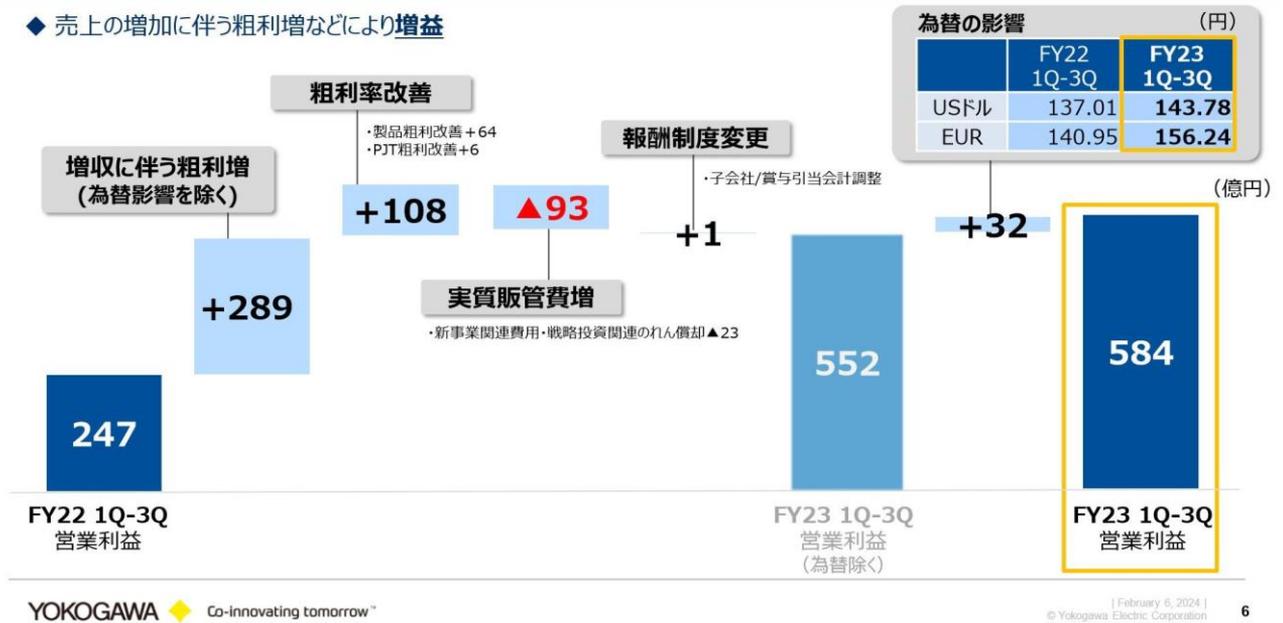
営業利益以下については、第 3 四半期において特別な事象は発生していません。営業利益の増益に加え、第 1 四半期に計上した有価証券売却益が当期純利益の増益に寄与しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益分析（前年同期比）

◆ 売上の増加に伴う粗利増などにより増益



6 ページ、営業利益の増減分析です。

前年の 247 億円に対し、為替の影響を除きましても 305 億円の増益となりました。増収に伴う粗利増 289 億円に加え、粗利率改善 108 億円が大きく寄与しています。

粗利率改善の内訳としては、製品粗利の改善が 64 億円、PJT 粗利の改善が 6 億円となっています。製品粗利については、上期から引き続き生産稼働率を引き上げていることに伴い原価性固定費率が低下していることに加え、この第 3 四半期からは部品ひっ迫の影響に伴い割高で購入していた市場流通部品の在庫が解消してきたことによる効果も出てきています。PJT 粗利については、上期は粗利率の低い案件の売上集中などもあり、マイナス 10 億円の悪化となっていましたが、第 3 四半期は工事損失引当金を伴う戦略プロジェクトの受注計上がなかったことに加え、粗利率の高い案件の売上集中もあり、プラスに転じています。そのほか、製品の値上げ施策による効果も粗利率改善に大きく寄与しています。

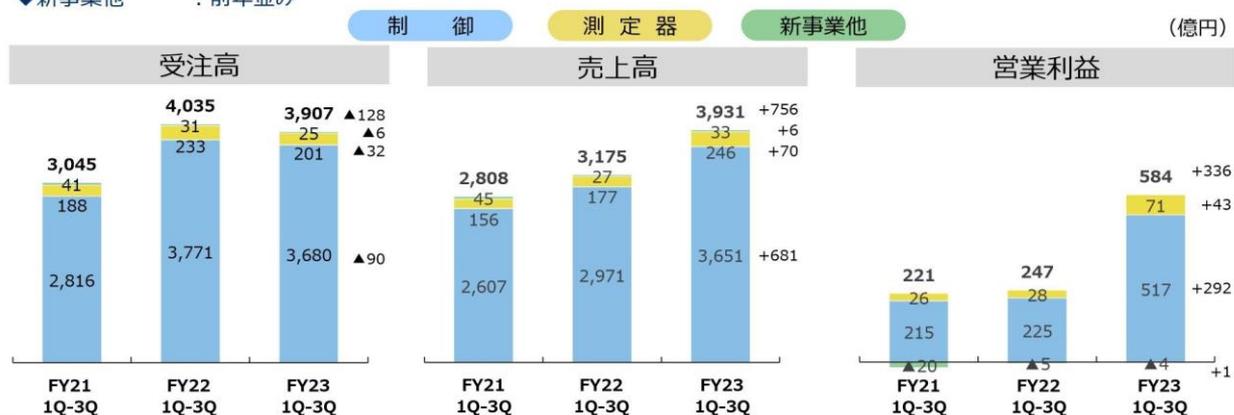
販管費は対前年で 93 億円の増加です。新事業関連費用や戦略投資ののれん償却費が増加していることに加え、増収に伴う販売手数料や活動費の増加、また人件費インフレ等の影響を受けて増加していますが、業績予想の範囲内での進捗となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆ 制御事業 : 受注は減少。売上は生産部品およびプロジェクト調達品の調達環境の改善や値上げ施策の効果、COVID-19後に受注した大型案件の売上高への計上、為替の変動影響などにより増加 (除・為替影響: 受注▲186億円 ▲4.9%、売上+584億円 +19.7%)
営業利益は、売上の増加に伴う粗利増などにより増益(除・為替影響: +266億円)
- ◆ 測定器事業 : 受注は減少。売上は生産部品の調達環境の改善などにより増加。営業利益は増益
- ◆ 新事業他 : 前年並み



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024]
© Yokogawa Electric Corporation

7

7 ページ、セグメント別の受注・売上・営業利益です。

青色の制御事業については、受注は対前年マイナス 90 億円、為替の影響を除くと 4.9%の減少です。売上は対前年プラス 681 億円、為替の影響を除いても 19.7%の大幅増収となりました。営業利益は対前年で 292 億円の増益となりました。増減の要因は、先ほどご説明した全社の内容と重複しますので、割愛させていただきます。

続いて黄色の測定器事業です。受注はマイナス 32 億円、為替の影響を除いて 16.3%減少となっています。昨年の上期が好調だった反動に加え、生産リードタイムの改善に伴い、お客様が先行発注されていたものに調整がかかっていると分析しています。ただし、上期と比較しますと減少幅は縮小しています。売上は対前年プラス 70 億円、為替の影響を除いても 35.1%の高い伸長です。受注を約 45 億円上回る高い水準となっていますが、こちらは先ほど申し上げました生産リードタイムの改善により、受注残の消化が進んでいることによるものです。営業利益は対前年 43 億円の増益となりました。

緑色の新事業他につきましては、前年から大きな変動はございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



制御地域別 受注・売上高

◆受注は、インド、中東・アフリカが引き続き好調。中国は減速感

◆受注：▲186億円、▲4.9%（除・為替影響） 売上：+584億円、+19.7%（除・為替影響）

（億円）

受注高	FY22 1Q-3Q (A)	FY23 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)	売上高	FY22 1Q-3Q (A)	FY23 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)
日本	931	908	▲23	日本	786	898	+112
アジア	1,352	1,335	▲18	アジア	1,108	1,293	+185
（東南アジア・ 極東）	(558)	(605)	(+47)	（東南アジア・ 極東）	(493)	(549)	(+56)
（中国）	(611)	(502)	(▲109)	（中国）	(488)	(565)	(+77)
（インド）	(183)	(228)	(+45)	（インド）	(127)	(178)	(+52)
欧州・CIS	356	338	▲18	欧州・CIS	306	365	+59
中東・アフリカ	604	623	+19	中東・アフリカ	383	591	+208
北米	357	333	▲25	北米	286	365	+79
中南米	170	144	▲26	中南米	102	139	+37
海外小計	2,840	2,773	▲67	海外小計	2,184	2,753	+569
合計	3,771	3,680	▲90	合計	2,971	3,651	+681
為替レート 1米ドル=	137.01円	143.78円	+6.77円	為替レート 1米ドル=	137.01円	143.78円	+6.77円

YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024]
© Yokogawa Electric Corporation

8

8 ページ、制御地域別の受注・売上です。

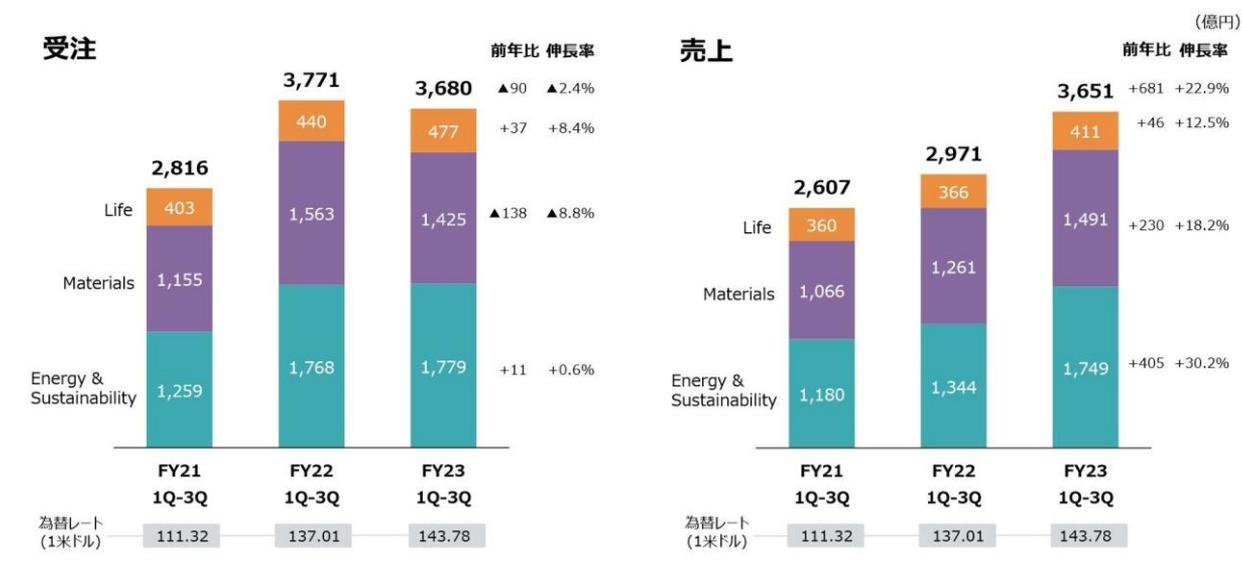
冒頭に記載のとおり、受注はインド、中東・アフリカが引き続き好調です。一方で、第3四半期に入り中国の減速感が顕在化しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

制御サブセグメント別 受注・売上高



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024]
© Yokogawa Electric Corporation

9

9 ページ、制御サブセグメント別の受注・売上高です。

下から Energy & Sustainability 事業、Materials 事業、Life 事業の 3 つでお示ししています。

左側の受注グラフについて、一番下の Energy & Sustainability 事業は対前年プラス 11 億円、為替の影響を除くと 2.3%の減少となっています。紫色の Materials 事業は対前年マイナス 138 億円、為替の影響を除くと 11.1%の減少となりました。オレンジ色の Life 事業は対前年プラス 37 億円、為替の影響を除くと 6.1%の伸長となっています。

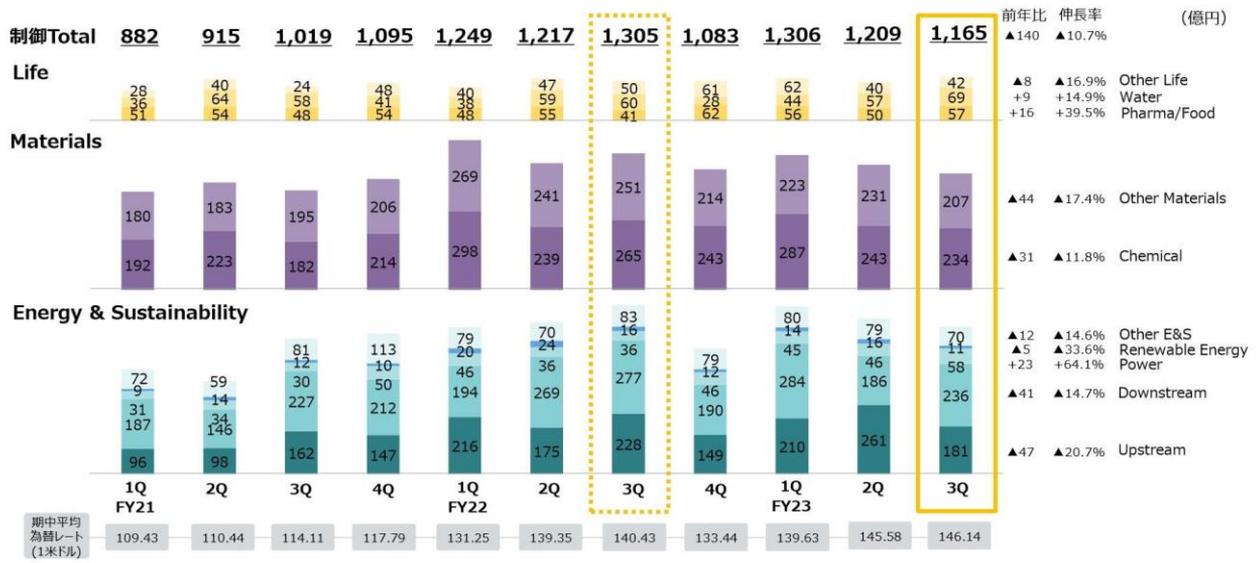
右側の売上グラフは、受注に遅れて数字に表れてきているものですので、個別のご説明は割愛させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



制御業種別 受注



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024] 10
© Yokogawa Electric Corporation

10 ページ、制御の3つのサブセグメントの動きを、その内訳の業種別に分解し、四半期トレンドをお示ししております。足元の動きを含めて補足させていただきます。

一番下の Energy & Sustainability 事業は、昨年の第3四半期の受注がかなり高水準だったことが、黄色い点線で囲っているところでご確認いただけたと思います。逆に今年度の第3四半期は、比較的大口受注が少なかったため、対前年同期では減少しています。この事業は、大口受注の計上タイミングにより、四半期ごとにかかなり変動します。そのため、足元は若干弱含んで見えるかもしれませんが、ベースの受注は安定して推移していること、第4四半期で計上見込みの大口案件も控えていることから、トレンドとしての悪化は認識していません。

続きまして中央の紫色、Materials 事業は、素材産業の調整局面が年初の想定よりも長期化していることに加え、足元での中国経済の減速を受けて数字が若干悪化しています。当社の海外拠点の中で、中国は比較的 Materials 事業の比率が高く、このセグメントの数字への影響が出ています。ただし、第4四半期には比較的大口の案件も見えており、リカバリーに転じていきたい考えです。

一番上の黄色の Life 事業は、食品、薬品、水、いずれも市場として堅調であることに加え、Life 事業としては比較的大口の受注が集中したこともあり、第3四半期としては好調な水準となっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

FY23業績予想（修正あり）

(億円)

	FY22(A)	FY23予想 11/7(B)	FY23予想 2/6(C)	前回予想比 (C-B)	前年比 (C-A)	伸長率 (C/A-1)
受注高	5,184	5,170	5,200	+30	+16	+0.3%
売上高	4,565	5,120	5,200	+80	+635	+13.9%
営業利益	444	630	700	+70	+256	+57.6%
ROS(%)	9.7	12.3	13.5	+1.2pt	+3.8pt	-
経常利益	486	640	710	+70	+224	+46.1%
税引前利益	498	745	815	+70	+317	+63.7%
法人税等	109	265	270	+5	+161	+148.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	389	480	545	+65	+156	+40.0%
EPS(円)	145.81	182.41	207.47	+25.06	+61.66	-
為替レート 1米ドル=	136.12円	140.00円	140.00円	+0.00円	+3.88円	-

11 ページからは年間の業績予想です。今回、業績予想を修正いたしました。第3四半期までの実績、受注パイプライン、受注残等の状況を踏まえ、上方修正を行っております。修正額は受注でプラス 30 億円、売上でプラス 80 億円、営業利益でプラス 70 億円、当期純利益でプラス 65 億円となっております。

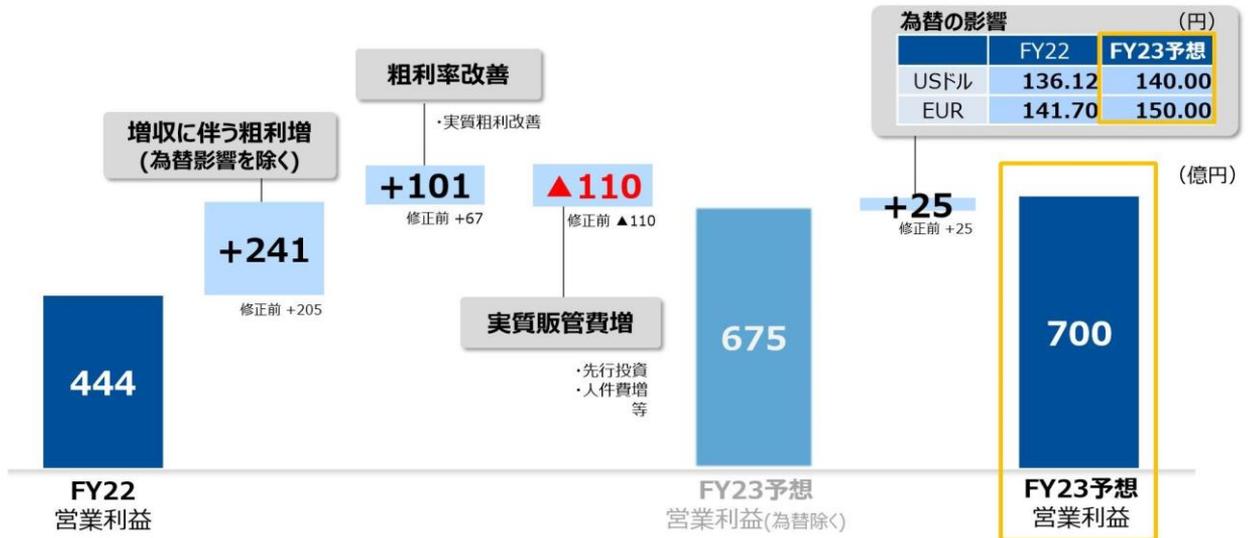
為替予想は、従来予想の 1 ドル 140 円から変更しておりません。現状の水準で推移しますと、144 円台で着地するのではないかと考えておりますが、あえて今回 1 円単位で為替予想を変更することはいたしておりませんので、改めて申し添えさせていただきます。

以降、12 ページは今回の業績予想を反映した営業利益の対前年増減分析、13 ページはセグメント別の受注・売上・営業利益予想、14 ページは制御地域別の受注・売上高予想、15 ページは制御サブセグメント別の受注・売上高予想の資料です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

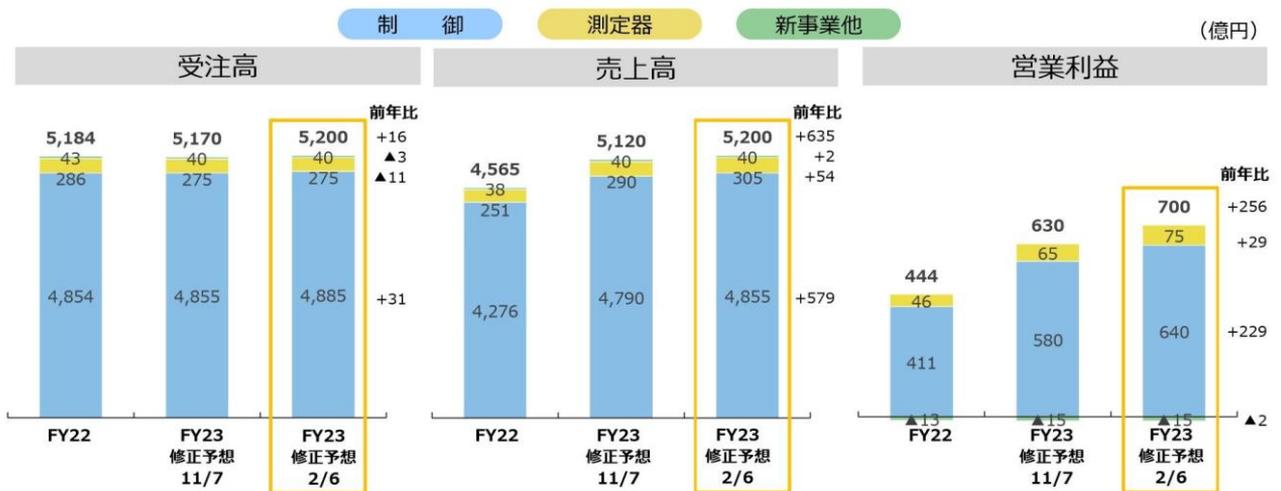
営業利益分析 予想（修正あり）



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™ ※現時点で決定していない新規M&Aによる影響は予想に含みません。

[February 6, 2024] 12
© Yokogawa Electric Corporation

セグメント別 受注・売上・営業利益 予想（修正あり）



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024] 13
© Yokogawa Electric Corporation

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

制御地域別 受注・売上高 予想（修正あり）

(億円)

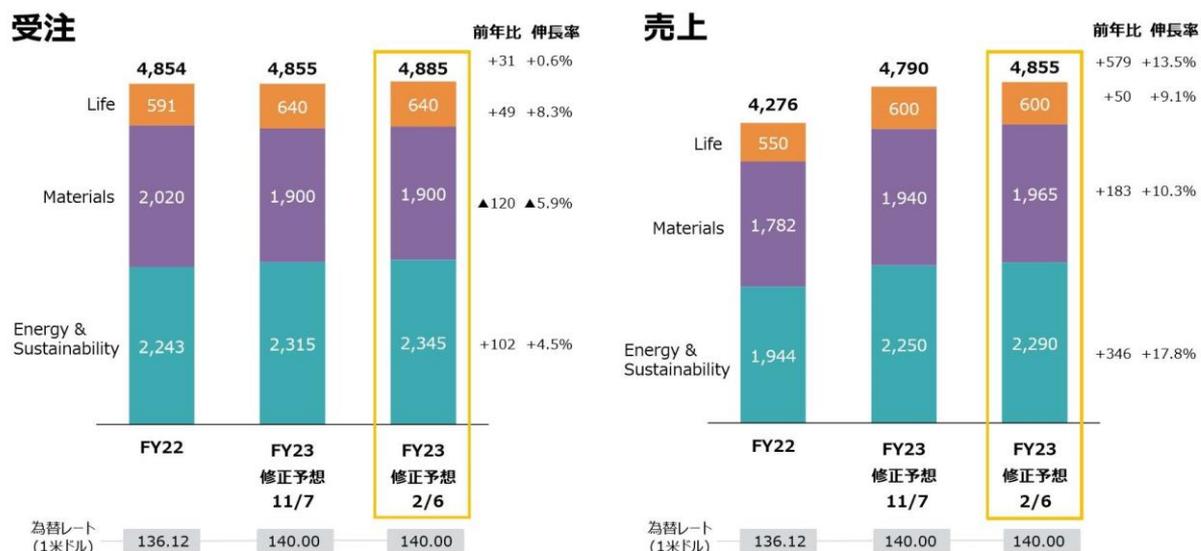
受注高	FY22 (A)	FY23 (B)	前年同期比 (B-A)	売上高	FY22 (A)	FY23 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,340	1,280	▲60	日本	1,160	1,245	+85
アジア	1,680	1,685	+5	アジア	1,538	1,695	+157
（東南アジア・極東）	(710)	(730)	(+20)	（東南アジア・極東）	(685)	(725)	(+40)
（中国）	(761)	(705)	(▲56)	（中国）	(668)	(740)	(+72)
（インド）	(209)	(250)	(+41)	（インド）	(185)	(230)	(+45)
欧州・CIS	464	460	▲4	欧州・CIS	424	465	+41
中東・アフリカ	714	760	+46	中東・アフリカ	599	770	+171
北米	473	520	+47	北米	407	495	+88
中南米	183	180	▲3	中南米	148	185	+37
海外小計	3,514	3,605	+91	海外小計	3,116	3,610	+494
合計	4,854	4,885	+31	合計	4,276	4,855	+579
為替レート 1米ドル=	136.12円	140.00円	+3.88円	為替レート 1米ドル=	136.12円	140.00円	+3.88円

YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024] 14
© Yokogawa Electric Corporation

制御サブセグメント別 受注・売上高 予想（修正あり）

(億円)



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

[February 6, 2024] 15
© Yokogawa Electric Corporation

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

株主還元（修正あり）

◆ 増配（期末配当金17円→23円、年間配当金34円→40円）

<配当>



<自己株式の取得>

- ・2023年12月29日で取得終了
- ・取得した自己株式の累計
株式の総数 : 6,776,300株
株式の取得価額の総額 : 179億円
(上限200億円)

最後に 16 ページ、株主還元です。

業績予想の修正を踏まえまして、配当予想についても見直しました。具体的には、期末配当金を従来予想の1株当たり17円から23円の6円増配、これに伴い年間配当金は34円から40円に増配修正しております。

私からのご説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

質疑応答

[Q]：3カ月前と比べて制御事業の事業環境や受注環境に変化があるのか確認させてください。3Qの受注が前年同期比で10%以上落ちているのは、前年の水準が高かったということですが、資料23ページを拝見すると、小口受注も1Q、2Q、3Qと少しずつ落ちてきており、3Qは1,000億円を割れているようにみえます。また、月次の受注も12月は数字が弱かったようにみえます。受注環境が少しずつ悪化し始めていると捉えたほうが良いのでしょうか。それとも、4Qはまた大口受注も入るといふご説明もありましたので、3Qはたまたま一服したとみれば良いのでしょうか。

併せて、来期の受注について、今期比でさらに伸ばせるのか、現時点でコメントいただけることがあればお願いします。

[A]：事業環境や受注環境の3カ月前との比較、またその影響が3Q3カ月の数字に表れてきている部分については、Materials事業の減速感が若干長期化しているかなというところですが、素材産業の調整局面は年初から想定していましたが、ここにさらに中国の経済減速の影響が出てきており、FA業界などはかなり早くからこの影響を受けていると聞いていましたが、われわれの数字にも影響が出てきていることが、この3Qでの変化だと思えます。あまり地域的に拡大せずに、底打ち感を迎えてもらえればというところですが、4Qも含め、しばらく動きを見る必要があると考えています。動きとしては、大きいのはこの辺りです。

地域別では、北米について、お客様の投資意欲自体は引き続き堅調ではありますが、利上げの今後の動きの様子を見たいと、意思決定のタイミングを見計らっているお客様が若干いるかなとみています。そのため、資料8ページについても、2Qまでは北米も好調と冒頭に記載していましたが、この3カ月に若干環境が変わっているところと考えていますので、今回除外しています。

来期の受注に関しては、なかなかデジタル値でどのくらいと申し上げることは難しいところですが、Materials事業は、4Qあるいは来期の早い段階でしっかり底を打ってくれるだろうと思っています。一方で、先ほど申し上げましたとおり、中国が心配な地域で、しっかりここを見きわめて、5月発表予定の業績予想に反映していきたいと考えています。

[Q]：受注のパイプラインについて、今期よりも来期のほうが豊富というお話を伺っていましたが、状況に変化はありますか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



[A]：残り2カ月という状況で、今期に前倒しで入ってきそうな案件もありつつ、来期へスリップしそうな案件もあるところですが、大きな変化はありません。あとは残り数カ月、次の業績予想までの間に、しっかりと受注確度をウォッチして、見きわめていきたいところです。

[Q]：制御事業の利益率改善の中身と持続性について教えてください。

[A]：前期との比較、上期との比較では、前期や上期は特殊要因があるため、特にプロジェクト側はなかなか説明しづらいところがありますが、プロダクトとプロジェクトと分けて、できるだけ分かりやすいようにご説明できればと思います。

プロダクトに関しては、この3Qから部品ひっ迫の影響に伴い割高に購入していた市場流通品の在庫が解消してきたことで粗利率が改善していますが、これは持続性を持った足元での改善です。そのほか、上期から引き続きですが、生産稼働率の引き上げに伴う原価性固定費率の低下により、粗利率が改善しています。これは生産リードタイム解消に伴い、受注残消化をかなりのスピードで進めているため、一定の消化が進んだところで、生産稼働率上昇に伴う固定費率低下による粗利率改善の効果は少し落ちてくると思います。

プロジェクトに関しては、3Qはかなり特殊に利益率が良い状況になっています。上期は利益率の悪い案件の売上が集中しましたが、この3Qは逆にかなり良い利益率の案件が集中しました。そのほか、戦略プロジェクトと呼んでいる、工事損失引当の計上を伴う、赤字でも戦略的に受注する案件について、3Qでは引当金を計上していません。3Qはタイミング的に入ってこなかったところですが、4Qはしっかり取っていきたいと考えています。さらに今回、業績予想を上方修正している収益状況を鑑みても、4Qで戦略プロジェクトを積み増してやっていきたいということで、ここは3Qと比較しまして4Qは収益率を押し下げる要因となる想定です。

[Q]：4Qの制御事業の営業利益率は10%ぐらいに落ちる予想となっていますが、この水準を実力値と考えたほうが良いのでしょうか。

[A]：為替レート的前提を年間140円で据え置いており、4Qの利益率が悪く見え過ぎてしまっているところがあるかと思っています。為替感応度は、年間1円当たり受注・売上では25億円程度、営業利益では5~6億円程度です。為替影響はほとんど制御事業に効いてきますので、そこを補正していただくと、それほど低い利益率にはなっていないと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



一方で、先ほど申し上げたとおり、戦略プロジェクトをしっかりと獲得していきたいということ、また生産稼働率が若干落ちてくることは、3Qと比較して、4Qでの利益率を押し下げる要因になるだろうと考えています。

[Q]：今回、業績予想を受注で30億円、売上で80億円、営業利益で70億円、それぞれ上方修正されていますが、これは3Qで元々の想定に対してどれくらい上振れたのか、コメントをいただけますでしょうか。

[A]：手元に3Qの3カ月を区切ったものがないため、9カ月累計でお話すると、受注に関しては想定を若干超えた程度、売上に関しては前回（11月7日発表の業績予想）の修正額と今回の修正額を合わせた程度、超過しているとみていただいて良いかと思っています。

粗利率に関しては、かなり特殊要因で押し上がりましたと申し上げましたが、社内の計画に対しても超過しています。販管費につきましては、ほぼ計画どおりの水準で終えています。

[Q]：今回の上方修正は、基本的に3Qの上振れを考慮したもので、4Qの見通しは従来の見通しから変えていないのでしょうか。

[A]：3Qまでの実績を反映しつつ、改めて差し引きで計算した4Qが年初見通しに対してどうかというよりは、残り3カ月でどこまできちんとやっていけるかという考え方で、数字を作成しています。

[Q]：来期の売上の考え方を教えてください。前期は生産部品の供給制約があったことにより受注残として積み上がっていたものが、今期は生産部品の調達環境が改善し、プロダクト品を中心に売上を積み増している影響が、年間で200億円程度あるものの、来期はその特殊要因を除き増収をしていきたいというお話を伺っていました。それについて、現状の状況と見通しに変化はないかお伺いできますでしょうか。

[A]：生産リードタイム改善に伴う今期の売上の押し上げは200億円前後で、基本的に3カ月前と比較して状況は変わっていません。

来期はその押し上げ効果がなくなる中できちんと売上を伸ばしていけるかどうか、ということについては、先ほど申し上げた中国の状況、また素材産業全般の底打ちのタイミングに関しては、まだま

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



だ見きわめていかなければならないところですが、Materials 事業関連が厳しい一方で、Energy & Sustainability 事業の受注は今期も堅調に推移しています。3月までにどれだけしっかり受注が取れて、どのような期初残でスタートできるか、というところにもよりますが、なんとか成長をしていけるのではないかとというのが、現時点で申し上げられることです。

[Q]：今ご説明があった200億円の売上押し上げ効果を除いたベースで、来期の売上も伸ばせるようにしたいという考え方は変わっていないですか。

[A]：今期の売上の押し上げ効果がなくなってしまう分、しっかり新規受注を増やし、また今年度積み上げている受注残をしっかりと売上げることで、なんとか達成できるのではないかと、現時点ではみています。

[Q]：今期の収益性に関して、営業利益率が随分上がってきていますが、特殊要因がどのくらい含まれているのかを教えてください。

[A]：先ほども申し上げたとおり、売上の押し上げ効果が200億円前後あり、これについては固定費をほぼ増やさずにやれているところなので、そこは粗利率の改善という意味では特殊要因と考えています。

それが具体的にいくらなのかというと、どこを起点に見れば良いのかが難しいところですが、その影響はかなり出ています。しかし、4Qに関しては、昨年度も相当生産稼働率が上がってきていましたので、通期で50億円以上100億円以下の範囲で、実質として粗利率改善に効いていると考えています。

そのほか、値上げ施策による効果については、前年との比較という意味では必ずしもこのペースで改善していくものではないと考えていますが、今期限りの特殊要因ということではなく、来期も対前年の改善効果としては、売上の押し上げ効果が200億円減る分だけ、若干減るとは思いますが、引き続き販管費側の上昇圧力、特に賃金の上昇圧力もありますので、値上げは継続的にやっていくものだと考えています。そのため、値上げ施策による効果は特殊要因とは考えていない部分です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



[Q]：御社は謙虚なので、収益性が良くなっているというのを自分たちであまり詳しくに言わない気がするのですが、マーケットサイドは、利益率の実態はどこにあるのかを知りたいのだと思います。

例えば、今ご説明があった、今期粗利率を押し上げている特殊要因 50 億円～100 億円という数字を今期の業績予想の数字から引いた場合、制御事業の営業利益率は 11%ぐらいになります。営業利益率に関しては中期経営計画で 10%という目標を挙げていますが、社内でも利益率が上がってきていると、少し目線が上がってきていると考えているのでしょうか。その辺り、コメントいただけるものがあればお願いします。

[A]：今年度が中期経営計画の最終年度です。今期がまだ締まっていない中でレビューを具体的にすることは時期尚早ではありますが、中期経営計画を策定した当初は、前提為替レートは 1 ドル 105 円で設定していました。その当時からは為替の変動による効果が相当出ていますので、社内的には 105 円ベースで、どこまで成長できているかをみているところであり、なかなかその部分をアピールし難いところです。

一方で、プロジェクト案件のグローバル調達の取り組みによるコストメリットであるとか、物流費の改善など、地道にはありますが、しっかり取り組んで数字にも効果が出てきています。しかし施策にしっかり取り組んでいる一方で、この中期経営計画の 3 年間は相当コストの上昇圧力があり、こういったなかで、仮に為替レートを 105 円ベースに戻した場合、トータルでの数字がどれだけわれわれとして本当に目指している改善ができているのかどうか、ということについて、分析をしているところです。

[Q]：現在の中期経営計画では、DX 活動を含めいろんな取り組みをされてきていますが、お客様に付加価値として認められて、それに見合った対価を利益率という観点でしっかり御社が享受できているのでしょうか。現状、利益率が良くなってきているので、その辺りに関して何かコメントがあればお願いします。

[A]：DX 活動に関しては、お客様から見てもわれわれから見ても新しい取り組みがありますが、PoC が先行しているところで、売上の規模、あるいは収益率という面で、足元でどこまで効いているかという、必ずしもそれほど大きく効いているものではないところです。

皆様にいろいろご説明させていただく立場の反省といたしましては、今ではなく、今後 3 年後、5 年後、あるいは 10 年後、どのように収益に効いてくると考えているかをしっかり説明させていた

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



だかなければならないかと思っています。本日はきちんとご説明できず申し訳ございませんが、今後、ご説明していけるよう、努めてまいります。

[Q]：資料 6 ページの営業利益分析について、値上げ施策による効果は、増収による粗利増と粗利率改善にどの程度含まれているのか、教えてください。

[A]：値上げ施策による効果は、これまでもご説明しておりますとおり、増収に伴う粗利増と粗利率改善に分かれて入っています。9 カ月累計で、効果額としては合わせて 60-70 億円程度です。増収効果側に入っているものが 30 億円弱、粗利率改善側に入っているものが 40 億円弱で、引き続き 2Q 並みの水準で対前年として効果が出ているところです。

[Q]：資料 12 ページの営業利益分析の修正予想について、通期のご計画の内訳を教えてください。

[A]：通年での値上げ施策の効果は、増収に伴う粗利増と粗利率改善、合わせて年間で 80 億円織り込んでいます。年初の想定からは約 30 億円プラスアルファで改善を見ているところです。

それ以外の粗利率改善効果を織り込んでいる部分としては、3Q から効果が出てきている市場流通品部品の購入影響の解消といったところ。また売上の上方修正に伴い、生産性向上施策、こちらはプロジェクトのグローバル調達の効果等に関しても、全体数字を押し上げますので、そちらも若干反映しています。

[Q]：戦略プロジェクトをもう少し積極的に獲得していくとのことですが、こちらは予算が増額されているのでしょうか。

[A]：戦略プロジェクトに関して、われわれの受注活動に影響が出てしまう部分もあるかなというところで、数字についてはご勘弁いただいておりますが、年初見ていたところからは倍程度、社内としては枠を増やしています。実際にしっかり受注が獲得できると良いのですが、今、最終の活動中です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[Q]：戦略プロジェクトの予算を「倍程度」に増額したとのことですが、この数字は業績予想には織り込まれているのでしょうか。

[A]：4Q 3 か月の予想は若干粗利率が低いのではないですかとご指摘がありましたが、そこに受注の増減を伴わない、赤字だけを計上するかたちで入っています。

[Q]：4Q の売上と受注の見方について教えてください。売上は 3Q から落ちるような予想となっていますが、受注残の消化は、3Q までと同じようなペースでは続かないのでしょうか。

また、受注に関して、4Q に大口案件が控えていると説明がありましたが、そちらは予想に全て織り込まれているのでしょうか。

[A]：売上に関しては、受注残消化は 4Q 中に一段落というかたちでみています。一方、受注に関しては、受注確度もありますので、全て織り込まれているかといわれますとなかなか回答が難しいところですが、このぐらいはしっかり取っていきけるのではないかという水準で織り込んでいます。

[Q]：Materials 事業について、中国は懸念が強いということですが、それ以外のトレンド的には 4Q ぐらいに底打ちが見えるかもしれないというコメントをされていたかと思います。どのような地域・業種が、御社の目から見て早めに戻ってくるご期待があるのでしょうか。

[A]：2021 年に制御事業を Energy & Sustainability 事業、Materials 事業、Life 事業の 3 業種セグメントに再編し、海外では Energy & Sustainability 事業の売上比率が高いところもあり、Materials 事業、Life 事業もしっかりグローバルで伸ばしていくかたちでオペレーションしています。

Materials 事業に関しては、それなりに海外比率がありますが、Energy & Sustainability 事業に比べるとかなり国内の比率が高いです。また、プロダクト品に関しては中国もそれなりに比率が高いところで、どの業種・地域が改善してきますかというところが、なかなかそれがそのまま全体の数字に効かないところをまず申し上げます。そういう意味で、4Q で比較的大きいものも見えていると申し上げたところに関しましては、国内の案件が中心になります。

業種別では、電気電子、半導体関連のお客様に関しては、底打ち感は見えてきたかなというところ。一方、そこに素材を供給している側はまだこれからというところ。あとは若干懸念として

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



は、中国の減速が日本、ASEAN 等の素材の回復の足を引っ張るのではないかとこのところ、プラス材料とマイナス材料の両方があるといった認識をしています。

[Q]： Energy & Sustainability 事業の受注のトレンドについて教えてください。2Q は Upstream 業種が順調で、Downstream 業種が減速と伺いましたが、3Q 3 カ月のトレンドを教えてください。

小口受注のトレンドは堅調とのことですが、地域、お客様の事業内容、製品など、こういったところを指して堅調とおっしゃっているのかを、教えていただけますでしょうか。

[A]：今年度、特に 2Q 辺りから顕著になってきた特徴としては、グローバルを通じて例えば Upstream 業種、Downstream 業種、どこが堅調とか、地域としてどこが堅調というよりは、地域によって堅調な部分が異なるところが、足元の特徴的な動きかと考えています。例えば OPEC の協調減産の影響で、中東の Upstream は若干弱まる一方で、これが例えば北米での Upstream の投資に間接的に影響していたり、というところありますので、なかなか玉虫色というところです。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

